

【 鍬入之儀 】

(1) 設計者

「鍬入之儀」【くわいのぎ】

1. 苅初之儀（設計者）【かりそめのぎ】
2. 穿初之儀（施主）【うがちぞめのぎ】
3. 地曳之儀（施工者）【じびきのぎ】

※設計者並びに施工者が同一人の場合は、
苅初之儀を省略する場合があります。



苅初之儀（“鎌”で盛砂上の斎草を刈る）

(2) 施主



穿初之儀（“鍬”で盛砂を3回掘る）

(3) 施工者



地曳之儀（“鋤”で盛砂を3回掘り起こす）

「穿初之儀（鍬入れ）」のやり方

- (1) 名前を呼ばれたら、前方に進んで参列者、神官の順に会釈程度のお辞儀をして、神官より“鍬”を受け取ります。“鍬”の受け取り方は左手を上、右手を下にして、神官に軽くお辞儀をしながら受け取るようにして下さい。
- (2) “鍬”を神官より受け取ったら、盛砂（斎砂）の所に行き、今度は右手が上に、左手が下になるように“鍬”を持ち替え、盛砂（斎砂）に“鍬”を入れる動作を3回行います。“鍬”を入れる時、「えい、えい、えい——」等のかけ声をなるべく掛けるようにして下さい。
- (3) 「鍬入れ」を終えたら、“鍬”を左手が上に、右手が下になるように持ち替えて、神官に軽くお辞儀をしながら返します。そして、神官、参列者の順に再び会釈程度のお辞儀をして、自席に戻して下さい。

※この時の服装は、平服で行います。

【 玉串奉奠 】



「玉串奉奠」【たまぐしほうてん】のやり方

- (1) 名前を呼ばれたら、前方に進んで参列者、神官の順に会釈程度のお辞儀をして、神官より“榊【さかき】（玉串）”を受け取ります。“榊（玉串）”の受け取り方は右手で“榊（玉串）”の根を上から持ち、左手で下から持ち上げるようにして、神官に軽くお辞儀をしながら受け取るようにして下さい。[図①]
- (2) “榊（玉串）”を胸の高さまで持ち上げながら神前に進み、会釈程度のお辞儀を祭壇に向かって行います。[図②]
- (3) そして、“榊（玉串）”の葉先を手前に、根が神前に向くように持ち替えて、祭壇（玉串案）に“榊（玉串）”供えます。[図③]
- (4) “榊（玉串）”供え終えたら、神前に向かって二回拝礼をし、二回拍手をし、更に一回拝礼を行って下さい。（二礼二拍手一礼）[図④]
- (5) 二礼二拍手一礼をしたら、少し後ろに下がりがり会釈程度のお辞儀を祭壇に向かって行ってから、神官、参列者の順に会釈程度のお辞儀をして、自席に戻して下さい。

※また、礼拝（同拝）される方は、代表者の方の名前が呼ばれたら、自席で立ち上がり、代表者が二拝二拍手一礼をするのに合わせて、その場で礼拝（同拝）を行います。